

平成三十一年四月一日発行（毎月一回一日）
書象 第六十七巻 第四号 通巻七六一号

書象



日本書道芸術協会
SHO JAPAN
設立1951年
代表理事 山本 浩二
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
電話 03-5561-1111
FAX 03-5561-1112
Eメール sho@sho-japan.org



日本書道芸術協会

2019-4

四月 新しい挑戦

副理事長 樋口玄山



上條信山先生書「満城流水香」

新年度、新学年、四月。生活が新しく生まれかわっていくような期待と緊張感があります。暦の正月とはちょっと違う新年のスタートです。自分なりの目標を立てると一年の稽古にはずみ加わります。新しい挑戦です。

たとえば、苦手な右払いの書き方をマスターしよう。調和体作品に打ち込んでみよう。細字実用書に慣れておきたい。あの大好きな古典の全臨を今年中に。読売展に出品しよう。等々。文字通り希望の春となります。

目標を立ててもその進め方には迷いがある。どこかで相談したくてもどうも気がひける。そんな時は書象会主催の各種講習会に是非ご参加下さい。先生方と親しくお話しできるチャンスがあります。参加のお仲間から刺激を受けることもあります。それから書象展。鑑賞の途中でお会いした先生から思わぬアドバイス、ラッキーでしたというのは参観者の声です。目標を立てたら積極的に動いてみることをお勧めいたします。そしてあとはいきれいな花を咲かせるべくコツコツ努力の積み重ねです。成果はすぐには出ないかもしれませんが、そう簡単ではありません。が、努力は報われる。努力は人格に気高い香りを与えてくれる。一瞬、教育者のお顔になった信山先生が、こんなことをお話しして下さったことがありました。

今回紹介する上條信山先生の作品「満城流水香」。禅語で、この前に「一夜落花雨」の句があります。「一夜、落花の雨。満城、流水香し。」と読むのでしょうか。せっかく花を咲かせようとしたのに、夜のうちの無情の雨。気づけば翌朝、満城の流水に花の香が。それはそれ、この線の清々しさはどうでしょう。



枯魚濁水に就く

4月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

行書臨書規定【臨規】

(師範・準師範・段位)

集王聖教序

上條信山先生書

無 受 想
行 識 空

受想行識も無く、(眼耳鼻舌身意も)無く、…

4月20日必着
出品券を貼付

・各字の概形を意識して書く。
・文字の大小や行間、字間に注意して全体の調和を図る。

無…書き方がそれぞれ異なるので注意。

無 受 想

受…不等間隔を意識する。

受

想…上下のバランスに注意する。

想

行…文字の中心に気をつける。

行

識…そのり角度、長さがポイント

識



・力強く運筆する。

故：しっかりと筆を置いて運筆する。偏と
旁の位置・バランス
にも留意する。

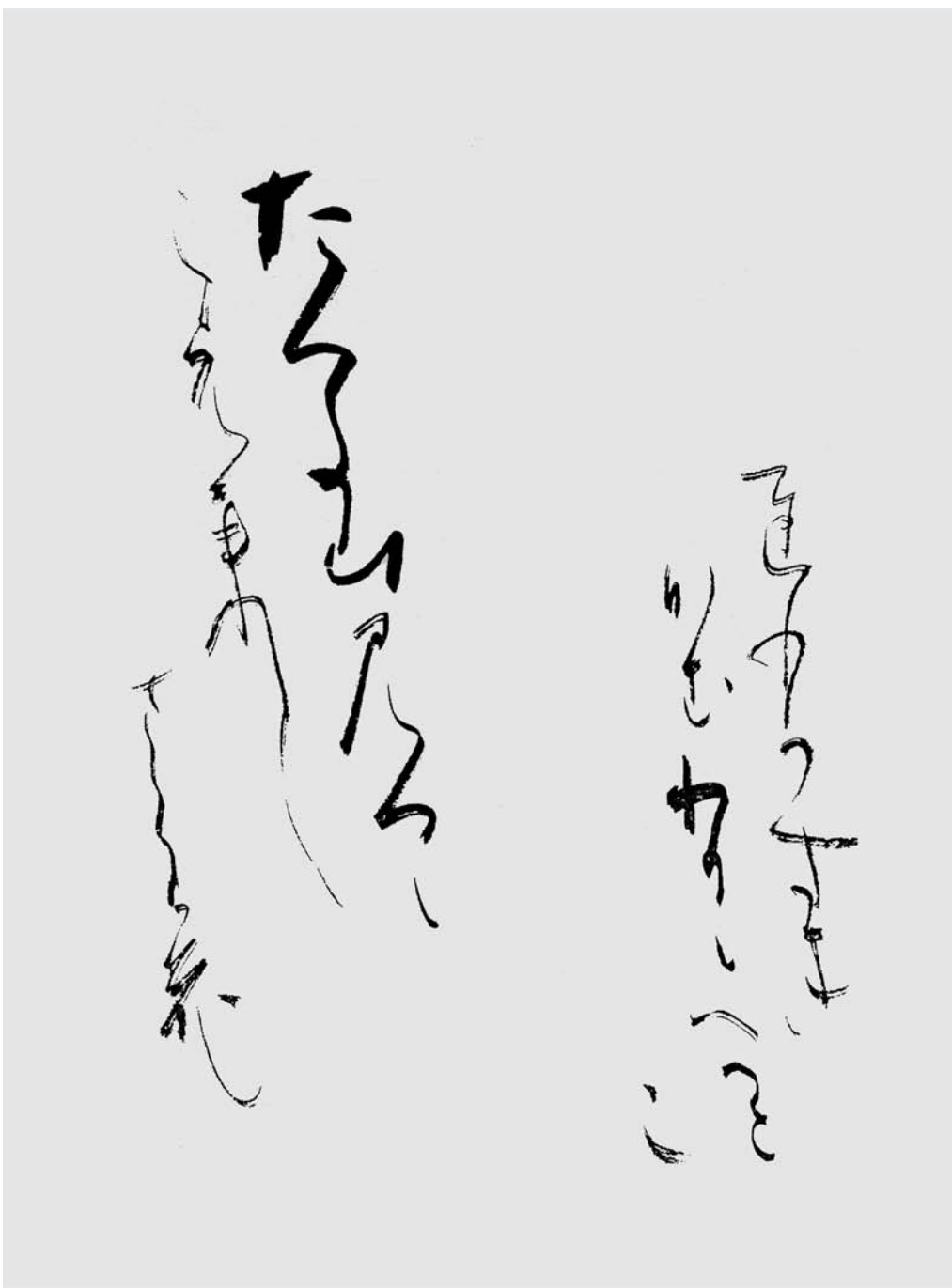


空：特筆すべきは二画
目のカムムリ、力強
く右上へ大きく伸び
ている点。その下は
軽快に運筆する。



仮名規定【仮規】 (師範・準師範・段位)

上條 信山 先生 書

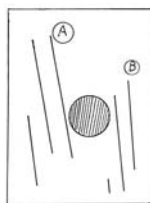


たつた(多) 山見つつ(々) こえ来しさくら花
 ち(遅)り(利)か(可)すぎな(那)むわが(可)か(々)へるとに(二)

(大伴家持)

4月20日必着
 出品券を貼付

・行の流れは左図参照。
 左上の「たつた(多) (Aの位置)」で含墨して書き始める。後半は、Bの二行目「わが(可)」で軽く墨つけをする。



「こえ来」



「さくら」

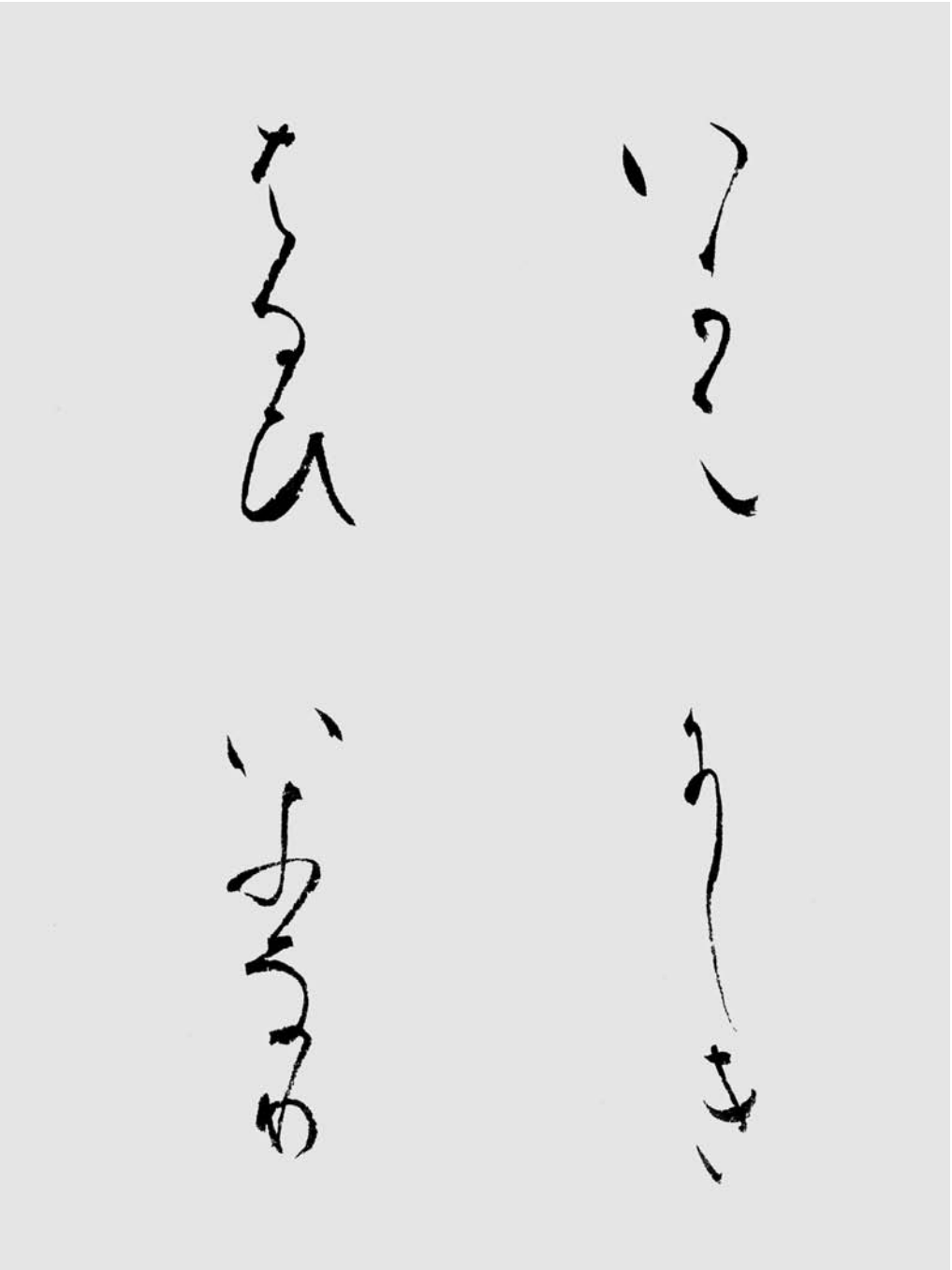


「ち(遅)」



「る」と





いか(可)に(二)に(尔)しき(者)は(者)る(者)ひ(者)い(者)ふ(者)な(奈)り(利)

「いか(可)に(二)」



・「い」からリズム良く「可」に移る。

・「二」の二画めは三字のバランスをとりながらやや強めに書く。

「に(尔)しき」



・二、三字目はやや右へ。

・「し」の形と動きに注意。

「は(者)る(者)ひ」



・「る」「ひ」の折り返しはしっかりとは。

「い(者)ふ(者)な(奈)り(利)」



・「い」「ふ」はゆったりと。

・「利」はやや傾けて小さめにまとめる。

朝辭白帝彩雲間
千里江陵一日還
兩岸猿聲啼不住
輕舟已過萬重山

李太白詩

氏名

- ・今月の課題は楮遂良の楷書の書風で書かれています。
- ・横画の方向と長さに留意して書きましよう。
- ・字幅を広くとりましよう。

早発白帝城

朝辭白帝彩雲間 千里江陵一日還
兩岸猿聲啼不住 輕舟已過萬重山

(李白)

4月20日必着

出品券を貼付

入選作のみ発表します



夢は落花と與に飛ぶと（陳文述の句）

- ◎細い線を用いずどっしりと太く書こう。
- ・夢は夢と同字。夕の左払い伸び伸びと。
- ・與は省略字体。P14の筆順を参考に。
- ・落は草かんむりの二点どっしりと。
- ・花は太い線で少し小さめに。
- ・飛は左右の太い画をスピーディーに。

条幅随意【条随】

上條信山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付



久方の雨に（二）ぬれつゝ時鳥な（那）くこえ（恵）き（支）け（遣）ばむか（可）しお（於）も（毛）ほ（本）ゆ。（良寛）

- ・墨の潤濁を生かす
- ・特に渴筆の変化を工夫する
- ・二行目終わりは渴筆で軽めにまとめる
- ・「雨に（二）」「時鳥」「こえ（恵）き（支）け（遣）ば」はP14参照。

目 学
標 習

中学一年規定 【学毛】

樋口玄山先生書

遊 野
心 原

中学二・三年規定 【学毛】

田中節山先生書

合話
心

小学五年規定 【学毛】

宮本耕成先生書

の
算
芽
木

小学六年規定 【学毛】

石丸曉風先生書



小学三年規定 【学毛】

蕪木珠紅先生書



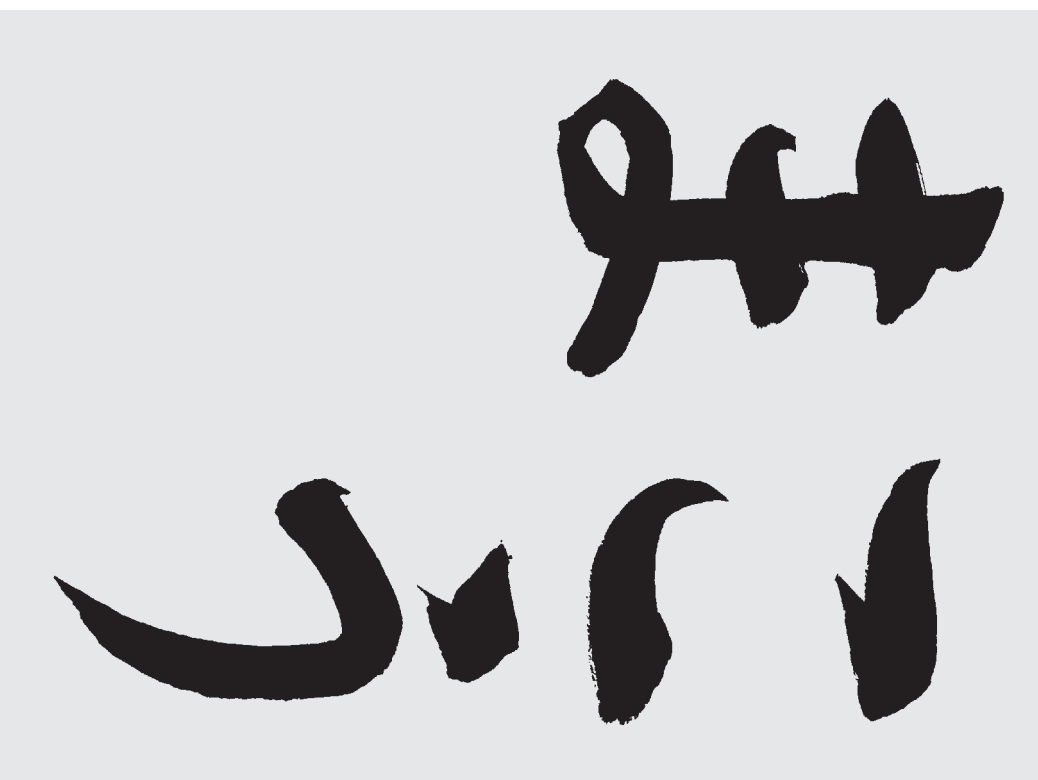
小学四年規定 【学毛】

小瀨石峯先生書



小学一年規定 【学毛】

渡辺華雪先生書



小学二年規定 【学毛】

柳澤玄嶽先生書

硬筆規定

一般規定【一硬】(師範・準師範・段位)

上條 信山 先生書

豊かな人生を持った(多)め(免)には、自己の仕事に信念を持つこと可能性を信じて全力を尽すことだ。

豊かな人生を持つと免には、自己の仕事に信念を持つこと可能性を信じて全力を尽すことだ。

一般規定【一硬】(級位)

二瓶 嶽風 先生書

私が思う「貧しい人」とは、限りない欲を持ち、いくらあっても満足しない人のことだ。ホセ・ムヒカ

中学規定【学硬】

藤岡 月華 先生書

古代文字「は」はなかなかおもしろい例
 えば「人」という文字は立っている人間
 の形「ノ」とかく、

小・中学生随意課題【学随】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。出品券を貼付して下さい。

小 一・二年 学	大	小 三・四年 学	友
小 五・六年 学	上達	中 学	進級

手本解説

基本 「枯魚就濁水」は左図参照。

枯魚就濁水

漢字条幅規定「與」「飛」の筆順は左図参照。・中学硬筆「人」の筆順。

與 飛

作品制作上の筆順です

人

仮名条幅随「雨に(一)」「時鳥」「こえ(恵)き(支)け(遣)ば」は左図参照。

雨に(一) 時鳥 小鳥よ 鳴け

学生部規定



中学二・三年

「野」は左右の組み合わせ方が大切。旁は縦長に書く。「原」の三画目以後は中心線よりやや右に。「で」は反り具合に注意。「遊」は窮屈にならないよう、画間を意識する。「ぶ」は筆脈を意識してリズムよく書く。



中学一年

「学」は冠を最大幅にし、七画目は軽く曲げる。「習」は上下の組み合わせ方に注意して書く。「目」は画間を整え、点画の接し方意識する。「標」は旁が大きくなり過ぎないよう、画間や線の長短に注意する。

小学五・六年規定【学硬】

大澤 梢光 先生書

来週の学級会では、私達の
の意見をまとめて発表
する予定です。

名前

支部 年

級段

小学三・四年規定【学硬】

大島 皎山 先生書

春の陽気にさそわれて
さくらの花がほころび
始めました。

名前

支部 年

級段

小学一・二年規定【学硬】

成瀬 恵苑 先生書

あ	た	あ	れ
ら	が	い	し
し	い	な	。
。	。	。	。
お	と	う	も

なまえ 支部 年 だきゆう

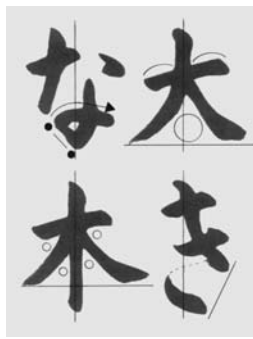
※出品券を貼付
して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペン使用の
こと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。
作品の大きさを下へ18 cmよこ7 cm 小一・二課題↓2.1 cmのマス目
の紙を使用する。小三・四・五・六課題↓2.1 cm巾の罫線を引く。



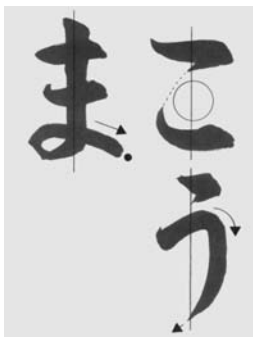
小学六年

「草」は下部の横画を最大幅にする。縦画は中心線上に書く。「木」は左右の払いの長さ、方向に注意する。「の」は始・終筆の位置に留意する。「芽」の草冠は扁平にし、「牙」との組合せ方に注意する。



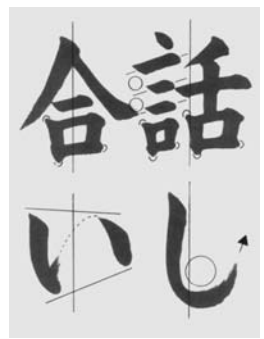
小学四年

「大」の二画目は横画を二等分する。左右の払いを最大幅にする。「き」の横画と三画目の交わり方に注意する。「な」の結びは三角形をイメージする。「木」は縦・横・払いの画間をそれぞれ等しくする。



小学二年

「こ」は筆脈を意識し、概形を縦長にする。「う」の二画目は曲がりの位置に注意し、中心線上で払う。「ま」は横画の長さに注意する。三画目は中心より右に書く。



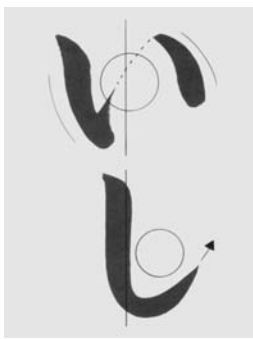
小学五年

「話」は横画の画間・長短や「口」の点画の接し方に注意する。「し」は中心線上よりやや左から書き始める。「合」は左右の払いを最大幅にして均衡を保つ。「い」の概形は横広を意識して書く。



小学三年

「カ」の一画目の折れの後の方向に注意する。「く」の始筆から折れ、折れから終筆までは軽く反る。「ら」の一画目を中心線上から書き始める。「べ」は中心線上より左の位置で曲がる。



小学一年

「い」は向かい合う線を外側に反らせる。また、長さや方向にも気をつける。「し」の概形は縦長を意識する。終筆の払いの方向と筆使いに注意する。

古典研究シリーズ ㊤【古典】

蘭亭叙 晋 (三五三年)

王羲之 (三〇七〜三六五年)

書き方

- ① 文字数を間違えないで出品して下さい。
- ② 続き文字でなくても構いません。
- ③ 落款を入れて下さい。
- ④ 作品の表左下に、支部名と氏名又は号を鉛筆で記入して下さい。更に制作意図も書いて下さい。
- ⑤ 古典研究の出品券を貼付して下さい。

(編集部)

今月のテーマ

表現的臨書 (B)

中字 (四字〜六字)

形に主観を加える

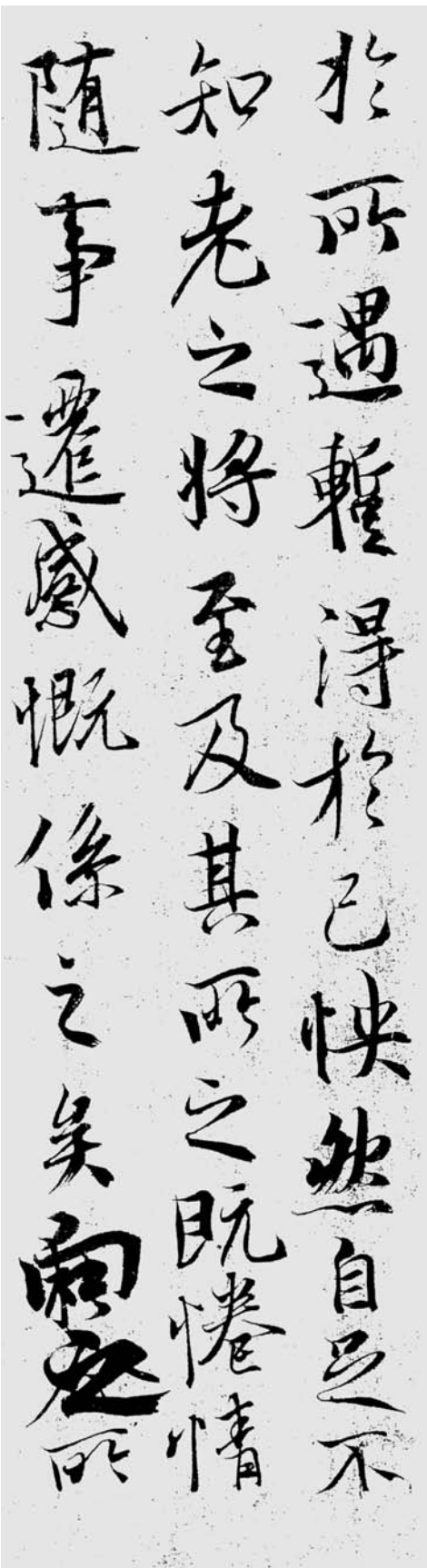
〈ねらい〉 古典の特質を失わない範囲で、出来るだけ形のデフォルメを行い、創作の香りの強い臨書をする。

〈学習①〉 対象古典の中から一字を選び、その特質を生かしたままで、思い切り縦長に強調してみる。次いで思い切り扁平に書いてみる。

〈学習②〉 次のねらいのもとに、対象古典の特質を生かして表現的臨書を試みる。

⑦ 頭部を大きく強調してみる ⑧ 下部を大きく強調してみる

〈学習③〉 さらに創作に近づけて、対象古典中の四〜六字ぐらいを、大小、長短等の全体構成をも考えて、表現的臨書Aの線表現をも駆使して、作品風の臨書を試みる。



〈釈文〉 於所遇。輒得於己快然自足。不知老之將至。及其所之既倦。情隨事遷。感慨係之矣。向之所

― 新手本『犬養公之碑』について ― その2

一九八二年「犬養公之碑」の発刊にあたって

犬養毅（木堂）没後五十年を迎える昭和五十七年（一九八二年）、その遺徳をしのび、末永く顕彰するため、「犬養公之碑」を発刊する運びとなりました。発刊にあたって「宮島詠士（大八）先生の人と書」について、上條信山先生が詳しく書かれています。「古法の悟入」「犬養公之碑」について抜粋してご紹介します。また、田中節山先生が、上條先生からお聞きになった「犬養公之碑」についてのお話も併せてご紹介します。

「宮島詠士（大八）先生の人と書」より：〈上條信山先生〉

○古法の悟入

詠士先生が千里を遠せずとして廉卿を訪ねたにもかかわらず、書は教えるものでも、教わるものでもない、自分で悟るものだと言われ筆さばきの実際は見せなかった。

師の書の再現が出来ず、古法はさとれず苦しみ抜いていた矢先、突然の師の死に逢い涙にくれるが致し方なく廉卿宅に別れを告げ、揚子江岸に舟を待ちながら、杖でなにげなく白砂にさらっと一線画いた瞬間、フッと師の説かれていた、落筆軽、終鋒急、発筆遠、入墨波の原理が胸中に鳴りひびいた。驚いて宿に飛びかえり直ちに筆をとったが寸分のくいはなかった。うれしくて部屋の中を飛び回ったわけだが、師の魂が最後の導きをして下さったのだらうと感慨深く話されていた。

○犬養公之碑

総理大臣犬養木堂翁の筆者として、詠士先生が選ばれたのも全くゆえあることである。詠士先生は「書は自らをただすもの」とされていたから、人に書を乞われた場合これに応ずるのには、一字といえども心魂を尽くされたものであった。二年、三年、五年もかかってしまうのが常であった。木堂翁碑



犬養公之碑（岡山市）

についても同様であったらうと思う。

私はその原案を見せてもらったが、碑大の紙型に字わりして線を引かれ、時に数字、半行、一行と書き直して添附されていた。

北魏の精神に九成宮を加えた細身で厳正なもので、沈着整齊、神韻縹渺たる日本の書風である、高古雅健、詠士先生一代の傑作となった。出来上がった時これをコロタイプにしていただき、また碑になってからの拓本も当時入手し大切にしている。

「犬養公之碑」について：〈田中節山先生〉

詠士先生書丹の二碑について、佐藤氏念祖碑の拓本出版を四国新聞から依頼されて、上條先生がそのタイトルを揮毫された時、二碑の書についてこう語られた。

「木堂翁と詠士先生は、大切な人間関係を保っておられ、二人の間に約束があったようだ。どちらか先に亡くなったら、その墓石の揮毫は残った者がする。不幸にして犬養毅内閣総理大臣は不慮の死を遂げられた。まさか、詠士先生が犬養公の碑を揮毫することにならうとは…。いざ揮毫し始めると悲しみと怒りがこみ上げて、まともな文字にならない。数枚書き上げても、その一枚に修正、また修正の紙切れが貼り重ねられた。犬養公への思い高まり悲しくなると文字は小さくなる。記録の部分では大きくなる。碑面には、その様子があちこちに展開されている。まさに、詠士先生の心情の書と言える。

これぞ宮島大八先生の素晴らしい心の書だ。ここに印刷上梓された『佐藤氏念祖碑』は、事実を揮毫したもの、坦々と揮毫されている。学ぶなら揃っていてこの方かな。本物の心情を知るなら、やはり『犬養公之碑』であらう。」と、しみじみと詠士先生のお姿を思い浮かべながらお話しをして下さった。

平成三十一年度 書象会総会・新年会

とき 平成三十一年一月二十七日(日)
ところ 東京・京王プラザホテル「コンコードボールルーム」



市澤静山理事長の年頭所感



田中節山会長による乾杯



上條節夫様をまじえての鏡開き



左から上條信山先生のご長男 上條節夫様
ご長女 唐澤かつ子様、ご次男 上條信之様



今年も大勢の出席があり楽しく一時を過ごしました



食事の合間にお隣の人と話が弾みます



テーブルを共にした皆さんと記念撮影



先生方が揮毫された色紙が抽選で当たります



理事長先生の色紙が当たりました



第57回書象展奨励賞受賞の皆さん



第57回書象展桜花賞受賞の皆さん



第35回読売書法展特別賞受賞の皆さん



第57回書象展書象賞受賞の皆さん



審査会員昇格者の皆さん



第80回謙慎書道会展特別賞受賞の皆さん



無鑑査会員昇格者の皆さん



通信条幅研究会で表彰を受けた皆さん

平成三十一年書象会授号式

とき 平成三十一年一月二十七日(日)
 ところ 京王プラザホテル四十七階「あけぼの」



市澤静山理事長の激励の言葉



授号証授与



授号証



今回授号された皆さん



授号者代表の言葉 永井 麗扇さん

平成三十一年度

書象会昇格者

平成三十一年度第五十七回書象展審査結果により、左記の通り書象会昇格者が発表されました。ますますのご活躍を期待いたします。P20の写真は、新年会で紹介され、委嘱状を受けた後の記念スナップです。

評議員 25名

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 安達 暁峰 | 石井 菁峰 | 井上 珠映 |
| 今井 春海 | 大澤 輝節 | 岡田 鳳吟 |
| 加藤 征光 | 金子 沙泉 | 菊地 恵爽 |
| 熊坂 呉碩 | 倉谷 聴月 | 小島 華凌 |
| 齋藤 彩節 | 澤 娥舟 | 鱸 桃娟 |
| 高橋 淡愁 | 武次 壺晶 | 伊達 潮虹 |
| 東郷 君子 | 中川 寿月 | 林 晶光 |
| 広松 蘭節 | 前田 名琴 | 水野 経霜 |
| 山口 智洲 | | |
- 無鑑査会員 4名
- | | | |
|-------|-------|-------|
| 北井 珠虹 | 工藤 和春 | 中村 秀華 |
| 藤井 憬花 | | |

—書道史に登場する人々を知る—

『書道史 謎解き三十話』の紹介

本会常任理事の魚住卿山先生による新著本が発刊されました。書の歴史的な位置づけや書法については、数多くの書籍が刊行されています。

この本は、三十の短編による「謎解きのスタイル」で、書道史に登場する人物の生涯を知り内面に触れ、秘められた背景に迫っていきます。

王羲之、顔真卿、智永、歐陽詢、王鐸、呉昌碩、聖徳太子、空海、道風、行成、良寛をはじめ、中国・日本の書道史に名を遺す大家たちは、どのような生涯をおくり、その書法にはどのような思想が込められているのでしょうか。歴史と書法の両面から検証する事により、作品が生まれた時代背景や、書の大家たちの生きざまや運命までも読み解いていきます。

書を学び、鑑賞するための格好の手引きとなる、興味津々の一冊。著者である魚住先生が岩波読書人誌「図書」二月号に書かれたメッセージをご紹介します。

(編集部)

著者からのメッセージ

名筆を生み出す力



魚住和晃

書の名家とは秀でて美しい字を書いた人と解されがちですが、実は美しい字を書く専門家は書生と呼ばれ、多くが下級官吏に留まって、名すら残されませんでした。中国の隋以前の名碑や造像記、墓誌銘に書者の名が記されているのはほんの数えるほどで、日本の平安期における仮名の名作でも、どれひとつとして書者の名はありません。

つまり、名家や名作が歴史を通じて評され名を残したには、うまさを越えたそれだけの理由があったに違いありません。そこに注ぎ込まれた理由、また価値観とは何か、それを知り踏まえ

ることによってこそ、本物の書鑑賞が成り立つといえましょう。

本書は書の歴史を、中国では秦始皇帝から呉昌碩、日本では聖徳太子から良寛にいたる全三十話の短篇集によって、謎解きのおもしろさでひもとこうとするのです。その結果はまさに人の生きざまであり、運命であり、また厚みのある思想の反映に他なりません。文字を書き形づくるのがいかに生命と結びつき、熱情の尽くされた文化であったかをお伝えできればと思います。



(うおずみ かずあき) 書家 神戸大学名誉教授

実技講習会

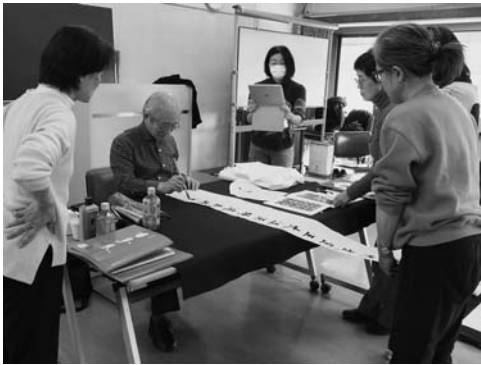
「書象展の作品を作ろう」に参加して

日曜日の喧噪で賑わう吉祥寺の繁華街にある武蔵野公会堂、会場設営から参加者で準備し、その後先生の説明が始まるまで、何となくざわざわと意気込みばかりが盛んな参加者たちです。冒頭、杉山先生から「講習会とありますが、今日は錬成会です。作品への集中と皆さんの気の高まりで心地よい空気感を作っていきます。その中で、よい作品が生み出せれば大成功だと思います。」とお話をうかがい、身の引き締まる思いがしました。

早春の明るい光に包まれて、ひたすら筆を動かす参加者たち。指導の市澤静山先生、杉山暁雲先生は、一人一人に寄り添い、模範揮毫をされ添削指導をしてくださいました。手をとっての筆圧の指導、作品に合わせた適切な筆を貸してくださいさるなど、親身なご指導は今まで経験したこと無い温かさを感じるものでした。

最後に作品選考をしていただき「これから約二ヶ月作品を書いていくのですが、これを上回るかどうかわかりませんが」と言われましたが、いただいたご指導を胸に秘め「絶対抜いてみせるぞ」と、決意を新たにしました。合宿もこんな雰囲気で行われていたことを思い出し、余裕が出来たら参加したいと思いました。

(笹川静章)



市澤先生の揮毫に見入る参加者



杉山先生の丁寧なご指導



熱気あふれる錬成風景

期 日 二月十日(日)
会 場 武蔵野公会堂
講 師 市澤静山先生 杉山暁雲先生

志摩支部錬成会

「心ときめいて」

会 期 二月九日(土)～十日(日)
会 場 志摩市阿見町鶴方公民館
講 師 中村巍山先生

中村巍山先生に講師をお願いして、二日間の錬成会を行いました。先生は、遠方からというのに、朝早く会場に着かれるとすぐに、私たちの作品を丁寧に添削してくださいました。また、一人一人廻りながら「ここはさっきよりうまく書けたね。」「いいよ。このまま続けて。」と励ましの言葉もかけてくださいました。先生のご指導のお陰で、多くの驚きや発見があり、会員は充実した二日間を過ごすことができました。

ところで、巍山先生は今年一月の新年会で「チコちゃんに叱られる！」(NHK)の一話を挙げ、「人生に潤いをもたせるためには、大人も子どもたちと同じように『トキメキ』を感じなさい。」という話をされました。今回、私たちは正に『トキメキ』の時間を体験することができたと思います。この錬成会も来年は十周年。心ときめかせて、その時を待ちたいと思います。

(倉谷奏風記)



熱心に錬成する参加者

藤森博士の漢字表記にもの申す⑪

書道学博士 藤森大節

昨年、ある書道展の審査で「雪」という漢字が話題になりました。「ヨ」の右下部分は縦画が出るか、横画が出るかという内容です。いわゆる点画の接し方ですが、皆さんはどのように書かれているでしょうか？

まず、現在の漢字指導の考え方について確認しておきましょう。漢字指導は小・中学校の学習指導要領国語の「学年別漢字配当表」に基づいて行われますが、指導要領の「指導計画の作成と内容の取扱い」には「学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること」とうたわれています。配当表の漢字は教科書体活字で表示されていることから、これが指導の際の「標準の字体」ということとです。標準と断る理由は、標準以外の字体があることを意味します。すでにご存知の通り「許容される書き方」のことです。

では、話を「雪」に戻しましょう。「学年別漢字配当表」の字体は縦画が出る字体になっているので、これが標準体となり、横画が出る字体は許容体となります。しかし、古典では標準体の字例は許容体よりも少なく、現在でも書初め展の手本は許容体の場合が多いようです。なぜ縦画が出る字体が配当表に採用されたのでしょうか？その字体を標準として採用した根拠が私には気になつて仕方ありません。これについてはあまり知られていないようなので、詳細は次回に譲ることにします。

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)

継続は力なり



有象虹支部 中一
飯田 怜奈

小学校二年生から習い始めました。苦手な文字も先生の熱心なご指導のおかげで上手に書けるようになりました。とても感謝しています。毛筆の特待生になることが出来てうれしいです。次は硬筆がんばります。支部長先生より一言 真面目に取り組む怜奈さん。おめでとう!! 努力の成果です。次の目標に向かって前進期待しています。

支え



茅野支部 中三
真道 陸

小学校三年生の時から始めた書道、その頃は特待生なんて夢にも思いませんでした。しかし、両親や先生からの支えがあり、今まで続けることができた。特待生になれました。本当にありがとうございます。支部長先生より一言 合格おめでとう。部活と両立させて頑張っています。これからも上を目指して続けて行きます。

感謝



倭支部 中三
茂木 真子

私は小学一年から書道を始め約九年経ちました。中学一年の時に毛筆で特待生になりましたが、部活や塾で忙しく大変でした。でも今回やっと硬筆で特待生になる事ができ嬉しかったです。先生にとっても感謝しています。支部長先生より一言 二冠達成、本当におめでとう。この調子で高校受験も頑張ってください。次は一般部への挑戦ですね!!

二冠達成して



湊支部 中三
早出 空里

小学校一年生から習字を習い始め、やっと特待生になることができました。いつも根気よくご指導くださった先生にとっても感謝しています。ありがとうございます。これからも頑張っていきたいと思えます。支部長先生より一言 部活に生徒会活動にと、忙しい中休むことなく教室に通って待望の特待生ですね!! ためめめ努力を!!

感謝



正桂支部 中三
松井 伸

今回、硬筆で特待生になったこと、とてもうれしです。合格するまでの約七年間はすごく長く感じました。けれどこのように、合格することができたので今までやっていてよかったです。毛筆も頑張っていました。支部長先生より一言 硬筆合格おめでとうノ諦めずに努力し続けた結果が実となりましたね。次は毛筆、期待しています。

合格



伊奈支部 中一
茂呂 和奏

特待生になって



月支部 中三
忍足 友里恵

特待生になれてうれしいです。毛筆は苦手、始めた頃は思ったように書けませんでした。先生が優しく教えてくださったおかげで、きれいな字が書けるようになりまし。これからも頑張ります。支部長先生より一言 物静かですが、内に秘めた強さが書に表れています。美しい線を書けるように粘り強く頑張りました。

私の誇り



芙蓉第五支部 中二
小川 観南

私は八年間習字を続け、二冠を達成することができました。先生の丁寧なご指導や、家族の支えのおかげです。本当にありがとうございます。この二冠は、私の大切な誇りです。支部長先生より一言 おめでとうございます。大変な努力家で最後まで頑張る生徒さんです。今後が楽しみです。

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)



雪国

高社支部 中三

青木彩華

銀世界。そんな言葉がびったりとあてはまる程、窓の外が吹雪いていました。真っ白です。帰るまでに雪だるまになってしまいました。その前に遭難しそうです。暖かい教室で字を書くことが出来るこの環境に感謝です。

支部長先生より一言 遠くの学校に通う中、そう、大雪の中も良く頑張り見事二冠を達成しました。お家の方に感謝ですね。

継続は力なり

照澤支部 中一

宮田 怜

僕は、習字を習い始めて八年経ちました。自分の書いた字に全く納得いかず、何回も書き直しました。先生のアドバイスを聞いた後、書いてみると、楽しく、上手く書けました。先生に感謝し、自分を褒めたいです。

支部長先生より一言 照澤初の男子特待生。怜君もうれしいが、先生もウントウントウントウントうれしい。おめでとう。



先生のおかげ

芙蓉第二支部 中三

長塚 佑衣

私は小学三年から書道を習い始めました。最初は上手に書くことができませんでした。けれど練習をして段々、上手く書ける様になりました。それは優しく指導して下さいました先生のおかげ、本当にありがとうございます。

支部長先生より一言 二冠達成おめでとう。高校受験が待っています。こつこつ頑張る佑衣ちゃん。大きなご褒美が待っていますよ。

目標達成

内藤支部 中三

内藤 麻結

小学生からの目標であった特待生になることができ、嬉しい気持ちでいっぱいです。書くことが大好きな気持ちで大切に今後新たな目標に向かってがんばっていきたいと思います。

支部長先生より一言 お習字を書く時の真剣さは小学生の頃から変わることがなかったね。特待生合格おめでとう!!



私の目標

久喜支部 中二

石井 董花

硬筆に続き、毛筆も特待生になることができました。両方特待生になることは私の目標だったので、指導して下さいました先生に感謝の気持ちでいっぱいです。これからは、苦手な行書に挑戦していきたいです。

支部長先生より一言 二冠達成おめでとう。部活で忙しい中、よく頑張りました。さらなる目標に向かって精進して下さい。

三度目

皓花支部 中三

大坪 千紗

二度特待生試験に落ち、「三度目の正直」と出るか、「二度あることは三度ある」と出るかとドキドキしていました。結果、「三度目の正直」と出たので本当に嬉しかったです。ありがとうございます。

支部長先生より一言 苦勞したけれど二冠達成おめでとう。千紗ちゃんの人生に、書道は寄り添ってくれることでしょう!!



目標

霞墨支部 中一

山田 愛

私は小学三年生から書道を始めました。やっと目標としていた特待生になることができました。日々お世話になっていた先生方に感謝して、硬筆でも特待生になれるようにこれからも、頑張っていきたいです。

支部長先生より一言 太く力強い文字は、静の中の強さからだと思えます。剣道からくる集中力は、すばらしいです。



感謝の思い

中野支部 中三

海野 真大

小学生の頃から書道を続けていましたが、特待生は僕の目標だったので、とても嬉しいです。今までご指導をしてくださった先生や、毎週送り迎えをしてくれた家族に感謝の思いを伝えたいです。ありがとうございます。

支部長先生より一言 もの静かな真大君、字には線の強さとやさしさが出ており人間性が表われています。将来が楽しみです。



私の楽しみ

東陽支部 中三

井田 愛美

小学一年生の時から始めたお習字は今では私の大きな自信になっています。今回特待生になれたのは色々な人のおかげなので、しっかり感謝してこれからも続けていきたいです。成瀬先生の所に通うのは、とても楽しいです。

支部長先生より一言 休まず通って来てくれる愛美さん、もう高校生ですね。これからの楽しみです。ゆっくり、じっくりと。

少年少女のページ 「わたしの会の仲間達」

有象虹支部 中二 渡邊 琉良



バレーボール部に所属し練習遠征、塾と大忙し。身長も伸び盛り書道も開眼？筆の運びにこだわり上達中。妹二人のいる心優しい家族思いの琉良君です。

正桂支部 小六 富澤 菜葉



健やかに真っすぐのびた竹の様な菜葉さんです。感性も豊かなので傷つく事も。でもそんな時こそ竹の様に強くはねかえってね！！今後も期待していますよ。

杉月支部 小六 河合 孝昭



スポーツは左利き。文字を書くのは右手でと決断。毛筆硬筆とも右手で目を見張る作品を書きます。「教室の誇り」となっています。

光ヶ丘支部



小二 蓮尾 結彩
小四 蓮尾 紗幸
四人兄弟の長女さゆちゃんは、妹の面倒や家のお手伝いが上手です。妹のゆいちゃんは、甘え上手なので上級からは、アイドル的存在です。

若竹支部 中一 小山 央流



央流君は頑張屋さんです。書道の他に珠算と空手を習っています。どれも上手で空手は大に出場する程です。今年の書初め展では特選を受賞しました。

珠紅支部 小四 渡邊 美紅



細い身体で女子相撲大会でも大活躍。バスケ、一輪車、新体操、山登り等身体を動かす事が大好き。何にでも挑戦する元気印。もちろん書道も元氣一杯。

平成支部 小五 星 見結愛



黙々とお稽古しています。音楽も好きだそうです。時々びっくりするような素晴らしい字を書きます。休まずに通っています。益々上達するようにガンバレ。

中野支部 小五 樋口 愛莉



お姉さんの葵ちゃんは昨年が県展で特選。今年が金賞と活躍。妹の愛莉ちゃんもお姉さんに続けと頑張っています。とても仲のよい姉妹です。

名東支部 中二 近藤 咲季



中学校ではバドミントン部。丁寧でセンス良い咲季さんの書は小学生の時から数々受賞し、毛筆特待生。勉強部活で忙しい中、次は硬筆特待生目指します。

宮地支部 小六 和 仁 瑞貴



陸上部でもがんばっています。瑞貴さんは習字教室を、明るくしてくれる生徒さんです。落ちついて書けるように、これからが楽しみです。

有穂支部 小六 新出 みのり



入会三年のみのりさん。石の上にも三年と言います。始めは遠慮がちだったけれど、真面目にこつこつ、いつの間にか六年生の中心になっていきますね。

峰支部 小四 渡邊 瑠華



姿勢の良い二人、瑠華さんは静かで落ち着いて手本に忠実、瑠璃さんは、活発でのびのびした字を書きます。二人共、体育が大好き、楽しみな姉妹です。



△漢字条幅▽

評 杉山 暁雲

坂本梗月

切れ味抜群、腕がよく動いて爽快な作品。

小西琴月

一気呵成リズムよく書かれ、迷いが無い。

田幸智峰

点の打ち方に配慮が感じられ丁寧な作品。

三沢泰仙

肘を張っているので収筆により余韻あり。

崎山芳葉

堅実に形を追った、安定感のある作品。

工藤和春

一画一画充実した筆運びが力強い作品だ。

中山美恵子

逆筆が会得され伸びやかな美しい線だ。

庄司朴山

手本の細部まで研究され落着きがある。

△条幅随意▽

評 山口 啓山

翠 山

黒の主張が周囲を圧倒する豪胆な作。

梓 虹

充分な墨量と味わい深い線質が印象的。

溥 山

心地良いリズムで上下の流れが抜群。

△通信条幅▽

評 柳澤 玄嶽

下平成苑

一貫した流れで筆力あり秀作となった。

宮崎京楓

中锋の安定感ある線、瀟洒で深味有り。

百瀬涼香

流れの美しさが光る。タッチの軽さ良し。



基本課題

評 藤岡 月華

涼華 特徴をよく捉え、含墨豊かで彩あり。
 曉麗 詠士の線質、用筆が上手く表現出来た。
 柚香 余白の美しさ抜群。筆勢もあり形も佳。
 中田秀麗 ダイナミックな形、大きさもあり秀作。

研究課題

評 小川 仙草

島村霞菫 含墨豊かで線の切れ味と勢いのある作品。
 仲島秀峰 大らかな書き振りで重量感あり。
 加藤穆舟 歯切れ良い運筆のリズムで爽快な作。
 川島映雪 落ち着きのある静かな作、布置見事。

古典課題

評 小室 墨汀

柄澤懂月 悠々たる運筆で全体構成良く練度高い作。
 塚原花瑠 穏やかで文字の空間を大切にした作。
 樋口志豊 写実性に富み、形の安定性は群を抜く。
 関澤劔山 行意をよく整え余白の美に優れた秀作。

師範部

△行書▽

評 山口 啓山

晃静 充分な墨量で豊かな作風が印象的。
 天性 軽快な筆致で冴えわたる線質が実に良い。
 節雨 写実性に富んで形の精度が抜群。
 茜沙 リズミカルな作品で腕の動きが見事。
 高橋太一 全体構成良く六文字がうまく調和した。
 静秀 独自の雰囲気があって好感の持てる秀作。
 象月 大胆な筆致で気宇壮大な気持ちで書けた。
 天苑 素直な線質で淡淡とした味わいあり。



惠 爽 迫力のある作品で一気呵成に書き上げた。

明 桜 貫通力があって焦点が定まった優秀作。

三 行 速度感のある筆遣いで渴筆も効果的。

真 静 線の細太や遅速緩急を上手に駆使した。

雅 染 文字構造に余裕を持たせ明るく仕上げた。

協野佳恵 誠実な書きぶりで日頃の成果を發揮。

葉 草 自由奔放で作品に躍動感あり。

康 絹 余白が美しい作品で爽快感に満ちている。

〈仮 名〉

評 田中 珠光

小林富静 全体感良く、渴筆の使い方が上手。

宿谷硯心 やさしく穏やかな作品。配置がよい。

伊藤喜咲 料紙への墨ののせ方がよく出来た作品。

増山静敬 手が大きく動いて、ゆったりした作品。

大井沙雪 運筆よく、線質よくこなれた作品。

百瀬涼香 淡々とした筆遣いでよくまとまった作品。

渋谷啓風 しっかりした強い線で力強い作品。

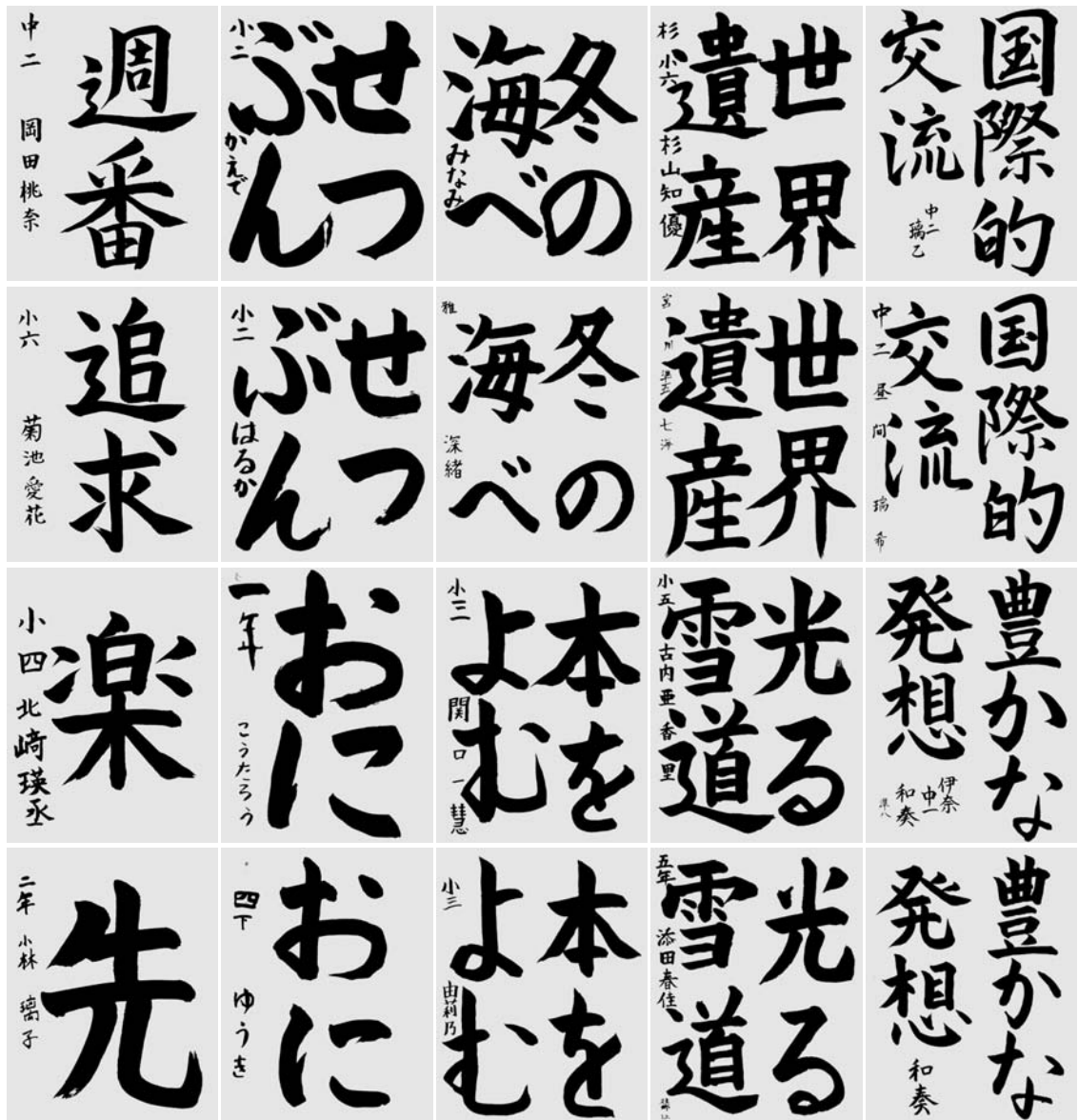
栗原明麗 素直な線で上手にまとまった作品。

小暮静翠 軽妙なタッチで潤渇のすばらしい作品。

藤牧峰雪 やや小振りりで、全体構成がよく調和した。

山下木華 焦点が明確で、見せばを心得ている。

直井景光 流れよく、余裕を感じさせる作品。



学 生 部

評 江上 玄光

佐藤璃乙 五文字のバランス、まとめ方がよい。
 昼間瑞希 やわらかな線質で悠々とした作品。
 茂呂和奏 漢字とひらがながのびやかな線と調和
 宮脇和奏 位置よく大ききよく、形のとり方見事
 杉山知優 ていねいに形よく四字をまとめました
 佐藤七海 一点一画に集中して書きあげました。
 古内亜香里 堂々とした書きぶり。名前もていねい。
 添田春佳 漢字とひらがなが調和していて美しい。
 澤本みなみ 大ききのびのびと、形よく書きました。
 望月深緒 筆づかいがていねい。明るい作品です。
 関口一慧 ゆったりと形をととのえて書きました。
 佐竹由利乃 四文字のバランスがすばらしい。
 廣瀬 楓 どっしりと力強く元氣よく書きました。
 星野遥香 形よくのびやかな線。名前もじょうず
 山田浩太郎 げんきいっぱい、つよそうなおにです。
 吉村優来 ゆっくり、ていねいにかきましたね。

半紙 随意

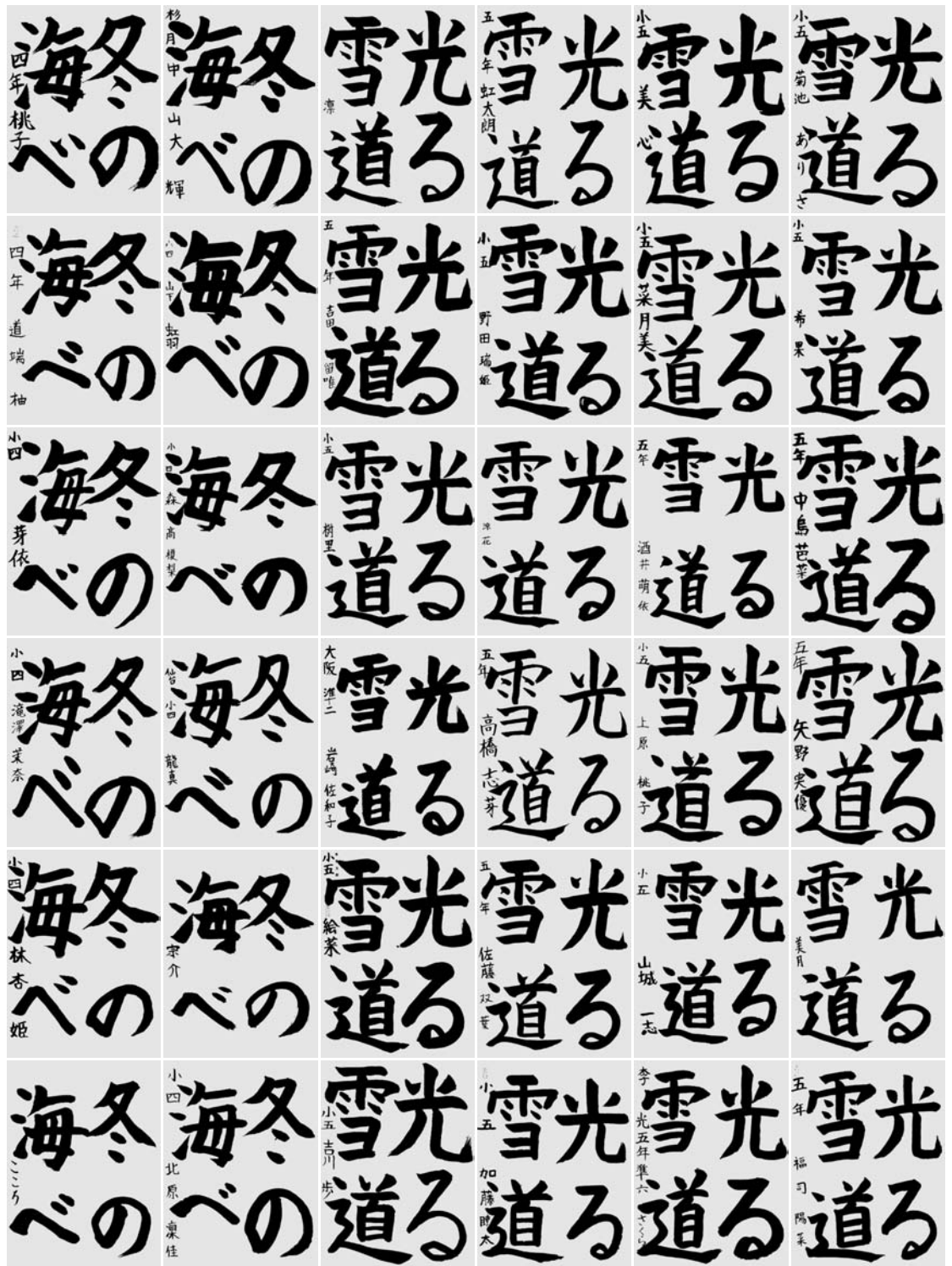
評 杉山 窓影

岡田桃奈 一点一画、丁寧の流れ良く書けた。
 菊池愛花 静かで落ちつきのあるすぐれた作品。
 北崎瑛丞 明るくのびやかで気持ちのよい作品。
 小林璃子 始めから終わりまで気をぬかずりっぱ。

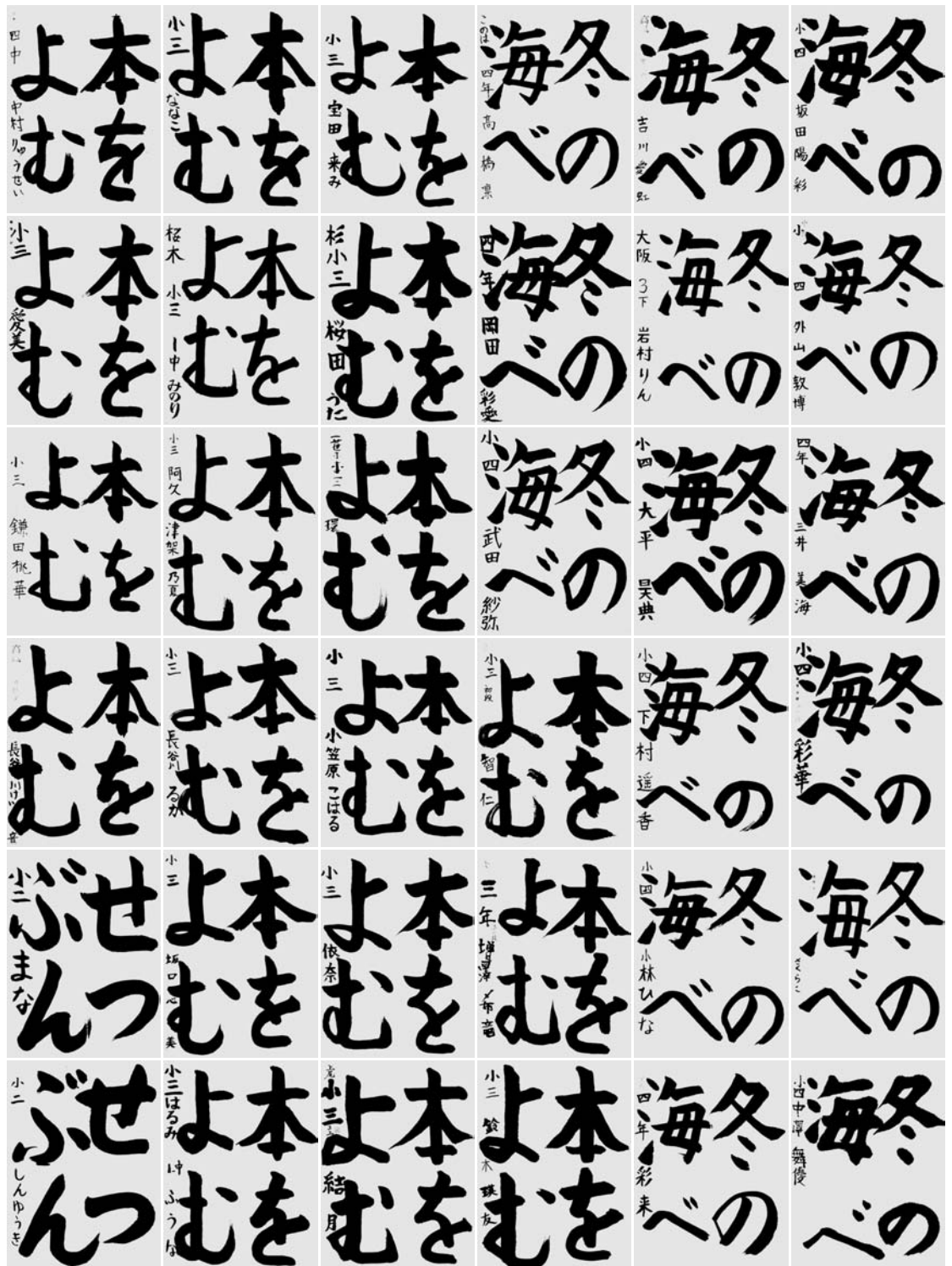
このページに掲載された人には書家会より記念の筆をさし上げます。

六年 内海早葵 世界遺産	小六 あわのめ 世界遺産	中一 佐藤舞果 豊かな 発想	中一 井口愛理 豊かな 発想	中一 高橋澄 豊かな 発想	奈良十二 尾上奈緒 国際的 交流
小六 彩香 世界遺産	小六 松本満莉愛 世界遺産	中一 西洋慶 豊かな 発想	中一 青柳 豊かな 発想	中一 華恋 豊かな 発想	彩水 国際的 交流
小六 岩間 世界遺産	土筆 小六 津田菜菜 世界遺産	中一 ひかり 豊かな 発想	中一 國津つぐみ 豊かな 発想	中一 津久井透 豊かな 発想	中二 勇之介 国際的 交流
小六 高須大知 世界遺産	小六 創太 世界遺産	中一 奈菜 豊かな 発想	中一 莉央 豊かな 発想	中一 永原佐久弥 豊かな 発想	土筆 中二 高翔花 国際的 交流
六年 涼夕 世界遺産	鈴鹿 小六 中 出岡 麗 世界遺産	中一 山田 愛 豊かな 発想	中一 木村遥 豊かな 発想	中一 紗和 豊かな 発想	鈴鹿 中二 初段 近藤 愛美 国際的 交流
五年 黒田悠美子 光る 雪道	久喜 小六 相澤沙織里 世界遺産	小六 掛川明日香 世界遺産	中一 大地 豊かな 発想	中一 森山遥輝 豊かな 発想	虹友 中二 五十川リ 国際的 交流

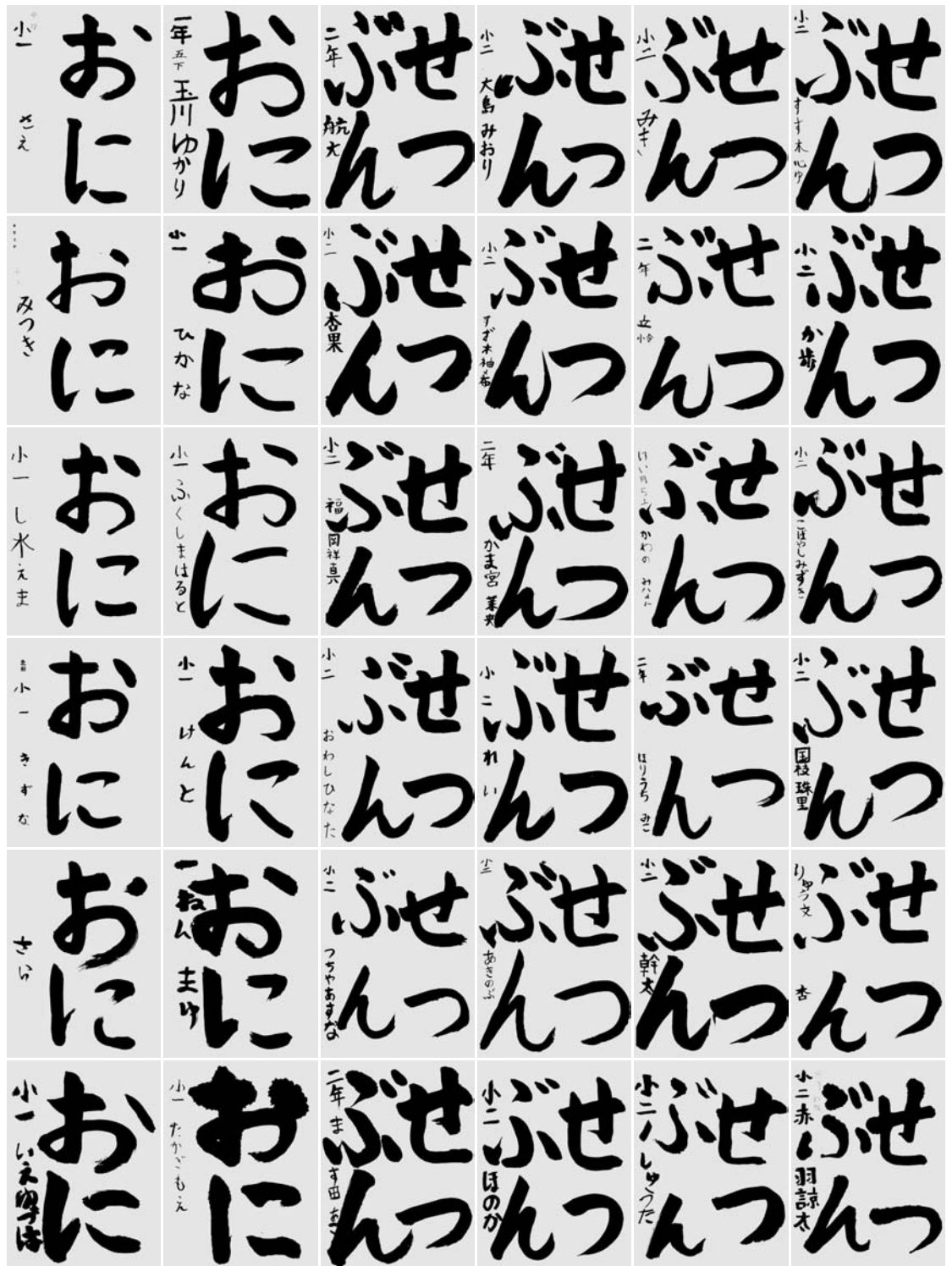
- 〔毛筆〕
- 〔中二・三〕 練馬 尾上 奈緒
珠紅 今井 彩水
華雪 加茂勇之介
土筆 高瀬 愛花
船橋 近藤 愛美
虹友 五十川リ
- 〔中一〕 虹苑 高橋 澄
松戸 竹島 華恋
平成 津久井 遥
名東 永原佐久弥
宇土 福原 紗和
聖 森山 遥輝
有虹 井口 愛理
水代 青柳ゆずゆ
中野 國津つぐみ
華雪 鶴沼 莉央
大象 高橋 大地
正桂 木村 遙
飯山 佐藤 舞果
妻科 西澤 慶
山愛 丸山ひかり
凜心 松尾 奈菜
霞墨 山田 愛
- 〔小六〕 長寿 掛川明日香
汀楓 高山 綾花
霞墨 松本満莉愛
土筆 津田 菜菜
光丘 和多田 創太
鈴鹿 出岡 麗
久喜 相澤沙織里
美菜 内海 早葵
華雪 江良 彩音
硯扇 岩間 彩芽
美那 高須 大知
千曲 跡部 涼々
〔小五〕 黒田悠美子



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|
| 知床 | ひま | 秀雪 | 光丘 | 書之 | 山愛 | たけ | 玄樸 | 仙台 | 有象 | 志摩 | 杉月 | 〔小四〕 | 硯扇 | 華雪 | 大阪 | みな | 大田 | 龍文 | 北府 | 硯 | 正桂 | 芙二 | 青雲 | 峰 | 李光 | 富士 | 高社 | 皓花 | 秀雪 | 光丘 | 書之 | 玄樸 | 神奈 | この | 倭 | 名東 |
| 倉澤 | 林 | 滝澤 | 岩立 | 道端 | 郷農 | 北原 | 大印 | 岩崎 | 森高 | 山下 | 中山 | 吉川 | 吉川 | 駒ヶ嶺 | 加藤 | 佐藤 | 高橋 | 豊田 | 野田 | 齋藤 | 中川 | 山城 | 山原 | 李光 | 富土 | 上原 | 酒井 | 藤田 | 小林 | 福司 | 岡村 | 矢野 | 中島 | 三上 | 菊池 | |
| こころ | 杏姫 | 菜奈 | 芽依 | 柚 | 桃子 | 凜佳 | 宗介 | 龍真 | 榎梨 | 虹羽 | 大輝 | 歩 | 絵菜 | 樹里 | 留唯 | 凛 | 瞭太 | 双葉 | 志芽 | 涼花 | みずき | 太朗 | さくら | 光 | 一志 | 依 | 月美 | 美心 | 陽菜 | 美月 | 実優 | 芭菜 | 希果 | ありさ | | |



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|-----|----|----|----|----|----|-----|-----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 富貴 | 一絵 | 高風 | 柏心 | 華雪 | 石峯 | 晴美 | 高社 | 蔵 | 秀雪 | 桜木 | 若松 | 上尾 | 名東 | 霞墨 | 一葉 | 杉 | 倭 | 玄黙 | 湊 | 綾華 | 優生 | シ | この | 平成 | 若竹 | 玄黙 | 個人 | 大阪 | 高風 | りん | 芙二 | 華雪 | 美菜 | 中野 | 練馬 |
| 進 | 薄井 | 長谷川 | 鎌田 | 谷川 | 中村 | 田中 | 坂口 | 長谷川 | 阿久津 | 野村 | 恩田 | 猪俣 | 永原 | 依奈 | 小笠原 | 皆川 | 櫻田 | 宝田 | 鈴木 | 増澤 | 富井 | 武田 | 岡田 | 高橋 | 竹内 | 小林 | 下村 | 大平 | 岩村 | 吉川 | 中澤 | 刈込 | 齊藤 | 三井 | 坂田 |
| 悠輝 | まな | 敬音 | 桃華 | 愛美 | 龍成 | 心美 | 心美 | 瑠果 | 乃夏 | のり | 結月 | 依奈 | 環 | 環 | 環 | うた | 来暉 | 瑛友 | 希竜 | 智仁 | 彩愛 | 彩愛 | 凜 | 彩来 | ひな | 遥香 | 昊典 | 凜 | 愛虹 | 舞優 | 彩華 | 美海 | 敦博 | 陽彩 | |



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| さわ | 竹華 | 北府 | 若宮 | 華雪 | 中野 | 星 | 皓花 | 瑞祥 | 秀雪 | 有穂 | 美五 | 【小一】 | 杉月 | 御代 | 霞墨 | 名東 | 月 | 山愛 | 光丘 | 秀雪 | 瑞祥 | 皓花 | 好野 | 茅野 | 練馬 | 房風 | 源創 | 溪月 | 宮地 | 和 | 照澤 | 龍文 | 玄黙 | 竹華 | みな | 美墨 |
| 伊得夕鶴華 | 小林紗来 | 渡部 紗 | 清水 咲磨 | 石井 都月 | 東本 紗英 | 高木 萌衣 | 藤木 健人 | 坪井 悠斗 | 福島 悠斗 | 佐山 陽奏 | 玉川 緑 | | 増田 あこ | 土屋明日愛 | 尾鷲 日向 | 福岡 祥真 | 秋野 杏果 | 北地 航大 | 黒澤穂乃佳 | 新居田 暁信 | 稲元 伶 | 鎌宮 茉央 | 鈴木 柚希 | 大島 海織 | 菊地 柗太 | 藤木 美瑚 | 堀内 美瑠 | 河野 美なん | 石地 立伶 | 仁坂 美貴 | 赤羽 諒太 | 駒ヶ嶺 杏 | 国枝 珠里 | 小林 瑞希 | 宮川 果歩 | 鈴木 心結 |

我々にどうして最久れ光栄は二度
と失脚しないうと云ふはななく倒さ
度には必ず起さるるところにある。
花 野矢 中四峰元

事を為すべく目標を持ち、それ
に向かつて突き進んでいる時は
どの人間の姿も美しい。 蓬谷 連入

清流のほとり、雪をかき
分けてふきのとうが見ら
れた。春は近い。 港田 莉乃

清流のほとり、雪をかき
分けてふきのとうが見ら
れた。春は近い。 一葉 瑞希
中屋敷 瑞希

文字は、正しい筆じゅんで
書くと字形がとのえや
すくなります。 五月 美鈴

お正月にもだち
とたこあげをして
あそんだ。

お正月にもだち
とたこあげをして
あそんだ。

我々にどうして最久れ光栄は、一度
と失脚しないうと云ふはななく倒さ
度には必ず起さるるところにある。 藤本 文香

事を為すべく目標を持ち、それ
に向かつて突き進んでいる時は
どの人間の姿も美しい。 佐藤 文香

清流のほとり、雪をかき
分けてふきのとうが見ら
れた。春は近い。 熊本 あい

清流のほとり、雪をかき
分けてふきのとうが見ら
れた。春は近い。 佐々木 春奈

文字は、正しい筆じゅんで
書くと字形がとのえや
すくなります。 南保 葵音

お正月にもだち
とたこあげをして
あそんだ。

お正月にもだち
とたこあげをして
あそんだ。

生涯実物を見ることはないと思っ
た。頼真卿の「祭姪文稿」が東京国
立博物館にやてきた。 眞央

事を為すべく目標を持ち、それ
に向かつて突き進んでいる時は
どの人間の姿も美しい。 吉原 隆夫

清流のほとり、雪をかき
分けてふきのとうが見ら
れた。春は近い。 鹿野 結菜

文字は、正しい筆じゅんで
書くと字形がとのえや
すくなります。 坂田 史

文字は、正しい筆じゅんで
書くと字形がとのえや
すくなります。 西村 友翔

お正月にもだち
とたこあげをして
あそんだ。

お正月にもだち
とたこあげをして
あそんだ。

事を為すべく目標を持ち、それ
に向かつて突き進んでいる時は
どの人間の姿も美しい。 夏步

清流のほとり、雪をかき
分けてふきのとうが見ら
れた。春は近い。 菅谷 優羽

清流のほとり、雪をかき
分けてふきのとうが見ら
れた。春は近い。 三浦航太郎

文字は、正しい筆じゅんで
書くと字形がとのえや
すくなります。 佐山 優音

〔硬筆〕

- 平成 三浦航太郎
一葉 中屋敷瑞希
華雪 佐々木春奈
〔小三・四〕
杉 坂田 史
有穂 佐山 優音
若松 青木 美鈴
有虹 南保 葵音
書之 西村 友翔
〔小一・二〕
凛心 杉山 結音
北府 安村 謙伸
皓馬 杉山 心瑚
線馬 高橋 夏芽
中野 東本 紗英
珠悠 井上 幸香
- 〔一般〕
皓花 中田 皓花
小平 布施 杠華
北府 細田 真央
〔中学〕
東陽 細野 夏步
名東 澁谷 遥
佐藤 文香
霞墨 吉原 優衣
〔小五・六〕
新城 菅谷 優羽
光丘 滝田 莉乃
秀雪 熊本 あい
八潮 鹿野 結菜

Table containing names and titles in Japanese, organized in a grid-like structure. The text is dense and appears to be a list of names, possibly authors or subjects, with various characters and symbols interspersed.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

Main table containing names and symbols (square, circle, star) for various categories like '小・中学校の部' and '愛心支部'.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Table with multiple columns and rows listing names and associated numbers/grades. Includes sub-sections like '伊奈支部', '往郷支部', '大泉支部', etc.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

曉山・久喜・藏・溪月・玄嶽・硯扇・源創・玄模・玄黙・虹苑・皓花・高社・紅竹・高風・虹友・この葉・桜木・さざなみ・さわらび・サン・山愛・杉月・志摩・シラス・秀雪

Table of names and their associated ranks (e.g., 8下, 7上, 6下, 5上) and branch affiliations (e.g., 久喜支部, 蔵支部, 硯扇支部, etc.). The names are organized into columns and rows, with some names appearing in multiple cells across rows and columns.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Main table containing names and their corresponding grades (e.g., 準二段, 初段, 特待) across various categories.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

Main table containing names, grades, and branch affiliations. Columns include names like 松沢悠, 城川悠, 町川悠, etc., and grades such as 準初, 初, 準初, etc. Branches are indicated by symbols like △ or ☆.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Table with 10 columns and 25 rows of names and grades. Columns represent different groups (e.g., 熊澤直, 河野蒼, 中野華, etc.). Rows represent grades (e.g., 特待, 特一, 特二, etc.).

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

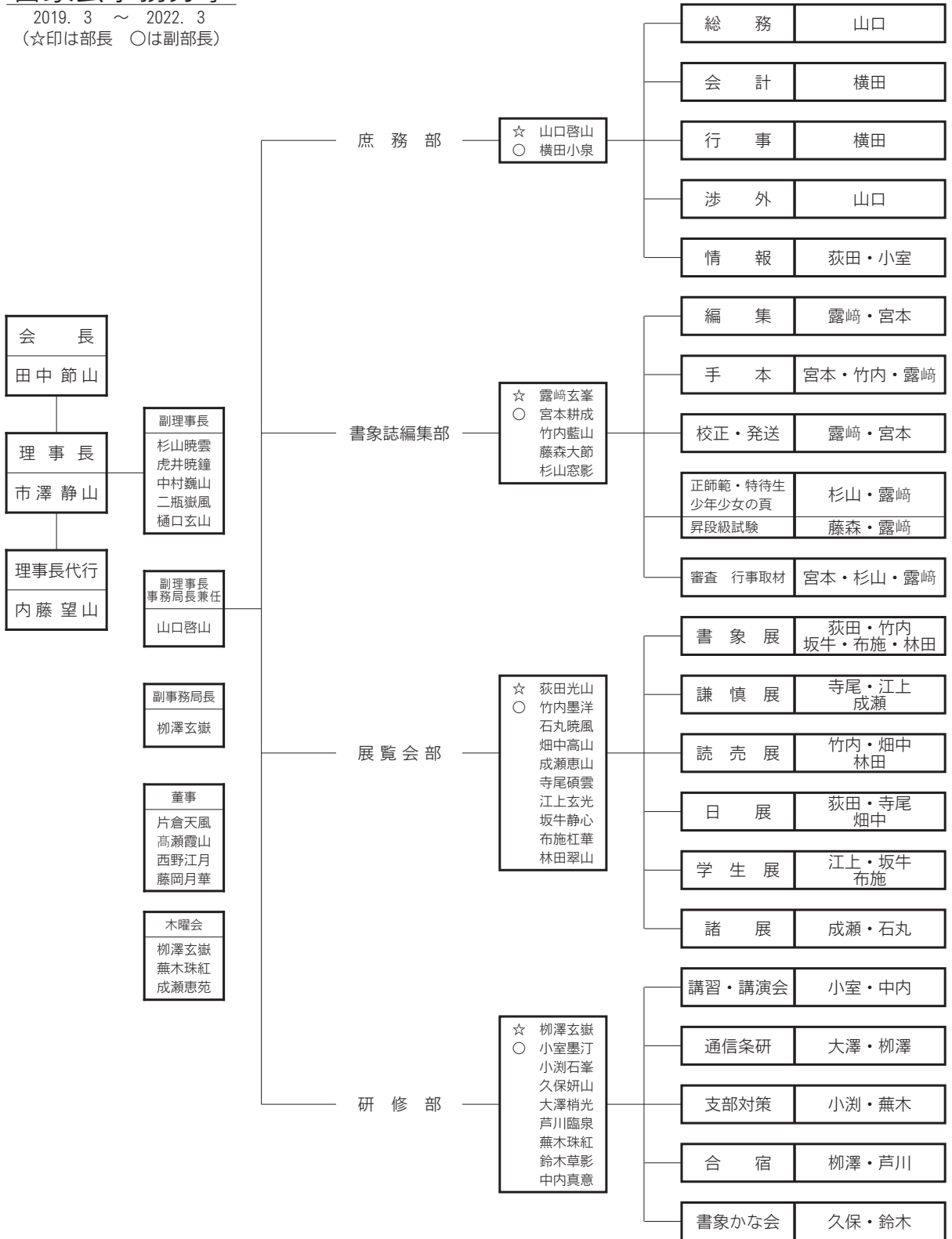
有象・有家虹・有穂・優生・右文・横浜第二・好野・李光・龍文・綾華・濃心・りりりん・麗墨・和・若竹・若葉・若松・若宮・若山・その他

Table with 10 columns and 20 rows of artist names and their respective segment levels. The table is organized into vertical columns, each headed by a specific artist or group name. Each cell contains a number representing the segment level and a small symbol (circle or triangle) indicating a specific status or award. The artists listed include names like 佐川山久, 近藤久, 内藤久, etc.

- 注意 1. バーコード出品券と作品の段級位の不一致にご注意下さい。
2. バーコード出品券には必ず○印と段級位等を、作品には段級位、名前を書いて下さい。
3. バーコード出品券の種別(臨規や仮規等)の○印の誤りに、ご注意下さい。
※上記の誤りがあった場合、正しい登録名列表の各段級位の最後列にお名前が入っています。

書象会事務分掌

2019. 3 ~ 2022. 3
 (☆印は部長 ○は副部長)



(地区幹事) 結城正憲(山形) 小泉壺藍 高橋天翠(千葉) 原山翠光(長野北信) 小林鐘山(長野東信)
 笠原泰山 関澤劔山(長野中信) 金田成仁(長野南信) 長谷川石心 日比野汀華(愛知)
 桂川聴花(三重) 藤澤珠玉(大阪) 畑中高山(福井) 吉澤蒼雲(熊本)

段級位切り替え表

一般	←	中学	←	小学
		臨楷課題 硬筆課題		毛筆課題 硬筆課題
8級 ←		8級 ←		8級(上・中・下)
		7級 ←		7級(上・中・下)
		6級 ←		6級(上・中・下)
		5級 ←		5級(上・中・下)
7級 ←		4級 ←		4級(上・中・下)
		3級 ←		3級(上・中・下)
		2級 ←		2級(上・中・下)
6級 ←		1級 ←		1級(上・中・下)
		特1級 ←		特1級
		特2級 ←		特2級
5級 ←		準初段 ←		準初段
		初段 ←		初段
		準二段 ←		準二段
		二段 ←		二段
		準三段 ←		準三段
4級 ←		三段 ←		三段
		準四段 ←		準四段
		四段 ←		四段
		準五段 ←		準五段
		五段 ←		五段
		準六段 ←		準六段
3級 ←		六段 ←		六段
		準七段 ←		準七段
		七段 ←		七段
		準八段 ←		準八段
		特待生 ←		特待生

※注意

- ・ 中学を卒業して一般に移行する方の毛筆課題の段級位は、臨書楷書課題へのみ、上の表の通りに移行し、4月からは切り替えた級位で出品して下さい。臨書行書課題や仮名課題への移行はありませんので、級位は「新」として出品して下さい。
- ・ 小学生から中学生への級位切り替えはバーコード出品目録で自動的に切り替えます。(編集部)

書象会便り

◆第81回謹慎書道会展に三六六名が出品

標記の最終選考会が去る二月三日(日)武蔵野スイングホールで開催され、審査の先生方が一点一点確認され、出品手続きを完了しました。

〈漢字部〉

- 副会長 一名
- 副理事長 一名
- 常任理事 三〇名
- 理事 一〇九名
- 評議員 一三二名
- 公募 九三名

《書展予告》

☆第12回藤岡月華書展

- 会期 四月一日(日)～六日(土)
- 会場 新井画廊(銀座第5大陽ビル1F)
- ☆大東文化大学静岡OB書展
- 会期 四月二十五日(木)～二十九日(祝)
- 会場 静岡市民ギャラリー1
- 出品者 芦川 臨泉 藤森 大節(本会関係)

☆第56回謹慎神奈川・静岡展

- 会期 四月三十日(火)～五月五日(日)
- 会場 神奈川県立県民ホールギャラリー1
- ☆埼玉伝統工芸会館・特別企画展
- 「柳澤玄嶽書の世界」
- 会期 五月二十八日(火)～六月二十三日(日)
- 会場 埼玉伝統工芸会館特別企画展示室(比企郡小川町大字小川一二二〇)

《書展報告》

☆平成三十一年蘭の会書展

- 会期 二月二十一日(木)～二十五日(日)
- 会場 阿佐ヶ谷区民センター
- 出品者 大賀 霞泉 大柳 萌泉 加賀山笙卿 神山 琴笙 本橋 芳月 山下 木華(本会関係)

☆第59回熊日書道展

- 会期 二月二十六日(火)～三月三日(日)
- 会場 熊本県立美術館本館
- 本会関係出品者
- 委嘱 吉澤 蒼雲 中川 汀松
- 無鑑査 小柳 貞松
- 入選 鹿谷 光琴 虎本 溪風 緒方 愛節 岡野 冷泉

平成31年度 書象会夏季合宿錬成会

会場 福島県磐梯熱海温泉ホテル華の湯
会期 平成31年8月31日(土)～9月2日(月)
二泊三日

定員 200名(6月より受付開始)

その他 ホテル内に広い錬成場を提供していただきます。

詳細は5月中旬にお知らせします。

〈研修部〉

発行人 (有) 書象
代表 上 條 節 夫

東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三六
郵便番号 180-0001 電話 〇四三(五三)九七四三
振替口座 〇〇一九〇一七二二五六九一
振替名義 (有) 書象
印刷所 株式会社 リンクス

氏名